

2023 年 自己点検・自己評価報告書

2022 年度実施分に対する評価

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

- 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1-2 学習の特色は何か
- 1-3 学校の将来構想を抱いているか

基準 2 学校運営

- 2-4 運営方針は定められているか
- 2-5 事業計画は定められているか
- 2-6 運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか
- 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 2-8 意思決定システムは確立されているか
- 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基準 3 教育活動

- 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応するニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
- 3-14 授業評価の実施・評価体系はあるか
- 3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 3-17 資格取得の指導體制があるか

基準 4 教育成果

- 4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
- 4-19 資格取得率の向上が図られているか
- 4-20 退学率の低減が図られているか
- 4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

基準 5 学生支援

- 5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 5-28 保護者と適切に連携しているか
- 5-29 卒業生への支援体制はあるか

基準 6 教育環境

- 6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 6-32 防災に対する体制は整備されているか

基準 7 学生の募集と受け入れ

- 7-33 学生募集活動は、適正に行われているか
- 7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 7-36 学納金は妥当なものとなっているか

基準 8 財務

- 8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか
- 8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

基準 9 法令等の遵守

- 9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め公開しているか

基準 10 社会貢献

- 10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- 10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか。	明確に定めている。	学則に謳うとともに、明確に定められた理念・目的・育成人材像は、入学時に配布するマイキャンパスガイドブックに記載し全学生・保護者に示している。	
理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか。	持っているが十分とは言えない。	各教科のカリキュラムや就職指導などが、理念・目的・育成人材像に沿ったものとなるよう職員会議で計画をたて協議決定するなどし、工夫・実現を図っている。また、学校関係者評価委員、教育課程編成委員の意見等を参考に取り入れている。	理念や組織についての研修を行い、職員ひとりひとりが改めて考える必要がある。
理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか。	毎年、見直しを行っている。	時代変化に応じたものとなるよう職員会議で協議決定している。また、専門分野の意見を取り入れられるよう組織的に協議を行っている。	
理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか。	教職員・学生・保護者にキャンパスガイドブックに記載して公表している。	教職員・在学生・保護者に対し、これらを明記したキャンパスガイドブックをホームページに公開している。また、スクールメールにて発信している。	教職員・学生・保護者に対して内容の周知をしていく。また、本自己点検の公表により、理念・目的・育成人材像を広く公表していく。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	ビジネス分野の資格を多数取得できる。資格試験に即した授業、実践的な授業が充実したカリキュラム編成。	地元企業の経営者の方々の講話を実施している。行政、企業、地域団体と連携した実践的な授業を行っている。連携する中で地域課題を解決するために必要な知識や技能を提案いただき、簿記、FPなどの資格取得に生かしている。	行政、地域団体とのさらなる連携を深めていく必要がある。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	医療現場のニーズに合わせた教育の実施。多様な資格取得ができるカリキュラムの編成。	医療機関の現場で得た求める人材の情報を、授業を通して伝えている。また長年にわたり培われてきた指導ノウハウにより指導方法が確立されている。	医療事務の仕事内容、必要性についてより一層学生たちの理解が深まるようにしていく。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	実際の試験内容に対応したカリキュラム編成。	様々な試験データを基に試験対策の授業を実施している。 官公庁の方に業務や採用についての説明会を実施している。	毎年度、教材を改訂し、様々な官公庁の方に説明会をしていただいでいく。 更に質を高めていくために模試の回数の見直しを検討していく。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	動物分野で幅広く活用できるスキルを習得。	動物分野での仕事内容が多様化していく中で、美容・看護・訓練・愛護と幅広く学ぶカリキュラムを編成しており、様々なニーズに対応できる人材を育成している。ひとつひとつの内容が希薄にならないよう授業内容や指導方法を工夫しており、美容分野では全国大会で複数回入賞するなど高い技術力を習得することができている。	動物分野の教授内容は移り変わりが激しく既習内容が過去のものとしてなることも珍しくない。教員も日々社会の動向に対応するべく研修等に参加し最新の知識・技術の習得を行っている。 愛玩動物看護師資格が施行され、ニーズに対応できる組織作りが必要。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	現場のニーズに即した IT の最新技術を使った実習や演習を実施。 また、1年次の早い段階から明確な職業観をもてるような指導体制が整っている。 IT 業界で幅広く活躍できるカリキュラムが整っている。	地元のエンジニアと頻りに情報交換を行う中で現場の業務の様子や、最新のプログラミング言語の記述方法の主流などの情報収集を授業内容に取り入れている。また、教員に Ruby 技術者認定試験取得者があり、高度な資格取得のための細やかな対応が可能となっている。 地元の IT 企業の方が講師となり特別授業を実施している。	より高度な資格取得のために、教員が教授方法について研究を行っている。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	施設設備、機器を揃えとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。グループ内の幼稚園・保育園の教育指導内容を参考に実践的な内容が学べる独自科目を取り入れている。本校併設の認定こども園との連携授業も実施。	教材については、必要に応じて随時補充していく。本校の教育内容に即した高度資格の取得及び、担当教科のさらなる知識の習得へ向けて各自研鑽を行っている。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	充実した最新設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	施設設備、機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 メーカーにとらわれない幅広い車種を実習に使用している。企業と連携した技術講習を授業で取り入れている。自動車教員の半数以上が自動車整備士1級の国家資格取得者であるなど自動車整備士の指導者としての資質が高い。	教員のうち自動車整備士1級未取得者については、資格取得に向けて勉強中である。既に取得している者については、さらなる知識・技術の習得のため本校の教育内容に即した高度資格を取得するなど各自研鑽中である。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	充実した設備機器と、レベルの高い教育内容。 現場に即した実習や演習を実施。	充実した施設設備、多様な福祉機器を揃えるとともに、学生人数に対して十分な教材数を揃えている。 専門分野に対する高い資質に加え、豊富な現場経験を備える人材を教員として有している。福祉施設との連携により、専門的実践の他、レクリエーション活動や季節行事を通じた支援方法も学べる。	教材については、必要に応じて随時補充していく。教員は本校の教育内容に即した担当教科のさらなる知識の習得へ向けて各自研鑽中である。

1-2 学校（学科）の特色はなにか（日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校（学科）の特色として挙げられるものがあるか。	日本語能力向上を目指したカリキュラム編成。 日本人学生との交流や、島根ならではの文化体験ができる。 日本語学科卒業後のビジョンが描きやすい環境を整えている。	レベル別のカリキュラムを整えている。 スポーツ大会や学園祭などの学校行事に、日本人学生とともに参加している。また堀川遊覧をはじめとした松江市内の観光スポット巡りを通して松江の風景や歴史に触れる体験授業も設けている。 専門課程の見学や体験授業、留学生に特化したオープンキャンパスを行い、進路について考える機会を設けている。	専門課程入学のための準備教育の内容を充実させる。専門課程の教員と連携を図り、就職情報やから情報を得ながら、授業の枠組みや教材を整備する。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	地域の景気動向により入学生数が左右されており不安定である。	景気が良い時は、高卒の就職率が高くなり入学生数が困難となる。逆に景気が悪い時は、高卒の就職率が低くなり入学生数が増加する。	高卒就職と専門卒就職との差別化を一層図る必要がある。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	入学者数が不安定、減少傾向にある。医療事務のみでなくセルフメディケーションの視点と地元での経営を担うことが可能な登録販売者取得で就職の選択肢を増やす。勤務医の過重労働が深刻化している今、医師事務作業補助者の資格取得に取り組んでいる。	オープンキャンパスなどで参加希望者がなかなか増えない状況であり、他校との差別化があいまいになっている。登録販売者に関しては中国地区の中で本校と岡山の1校でしか学習できない。店舗数が急増しているドラッグストア業界での就職を目指すことが可能であることをアピールする。	カリキュラムを見直し、医師事務作業補助者、登録販売者を導入した。医師事務作業補助者では職業としての地位確立や質の高い業務の遂行が求められる。登録販売者は店舗管理者の資格となり、経営の視点を持つことが必要となる。就職の幅が広がるよう今後も検討が必要であり、学生に興味のある美容学を導入予定。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	公務員採用数は年度ごとに変動するため中・長期的視点に立った将来像は描きにくい、あらゆる場合にも対応できる充実したカリキュラムは準備できている。	採用数の多寡に影響されない人材の育成を目指したカリキュラムを設定している。山陰各自治体の情報収集に努めるとともに、学生指導に力をいれ、優秀な人材の育成に努めている。	2年課程・1年課程において効果的な教育が行えるようカリキュラムの見直しを図っていく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	愛玩動物看護師国家資格取得ができる専修学校が増加傾向にある一方、本校は指定校になっていないため、このままだと動物病院への就職が厳しくなることが予想される。専門学校の動物関係の団体が一緒になり、大きな団体となる。このことから参加者が増える全国大会では競争が厳しくなるためトリミング技術のレベルアップが急務である。	動物看護師を志す学生は国家資格が取得できる県外の学校へ進学する割合が施行後から増えている。トリミング技術だけを学ぶ学校に対して、看護とトリミングを学ぶ本校では、トリミングを学ぶ時間数に差があり技術力で勝てない可能性がある。	国家資格が取得できる指定校となるよう、設置基準を満たすための構想を立てていく。トリミング技術を学ぶ時間数を増やすためのカリキュラム変更が課題。そのためには2年次からのコース分けを1年次後半から行うなどの対策が必要である。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	IT が学べるというだけで学生が集まる時代ではなくなってきた。	IT 教育の低年齢化が進む中で、高等学校の授業で IT について学ぶ。	専門学校で学ぶ内容について高度化していく必要がある。カリキュラムの見直しや4年制化への対応などを検討していく必要がある。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。認定こども園設置が主流となることを見据え、保育教諭育成を行う。	保育の職場は、慢性的に人材不足となっているのが現状であるため、昨年度に続き認定こども園への就職も視野に入れ、より現場に即した人材を輩出するよう学校として構想を立てて教育を実践している。また、施設等の福祉関係の就職先も視野に入れ教育を行っている。	地域や時代の要請にこたえる高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。大学や短大が全入時代となる中で募集環境が厳しいことから、差別化できる内容や違ったアプローチでの学生募集が必要である。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。自動車業界の人材不足を背景に、留学生の即戦力となる人材育成を行う。	自動車分野への就学・就職は、世界（日本）の景気動向に左右されやすいため、中期的な将来構想をたてにくい点もあるが、将来的な構想は抱いている。留学生、日本人同様に即戦力となる人材を育成する教育を行っている。	地域や時代の要請にこたえる高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	適切な学校運営および教育を行うため、常に将来構想は立てている。	介護の職場は、慢性的に人材不足となっているのが現状であるため、介護および介護業界の実情も知りつつ、介護福祉士としてのやりがいや、人の生活（人生）を支える重要な存在であることを学びながら伝えていき、より現場に即した人材を輩出するよう学校として構想を立てて教育を実践している。	地域や時代の要請にこたえる高等教育機関となるよう今後も構想をたてていく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか（日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか。	留学生の受け入れ、育成、進学について中期的構想を持っている。将来的に定員を増やし、生活・学習環境の整備を行っている。	留学生が生活しやすい環境を整えるため、学生寮の管理体制構築、アルバイト先の確保に努めている。学習面では、日本語力向上のため、レベル別カリキュラムを整えている。また、専門課程のオープンキャンパスに参加を促し、体験実習や学科説明も実施している。	日本語学科から当校の専門課程に進み、山陰地方で就職できるように、進学指導のための教材を整備する必要がある。

基準 2 学校運営

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、職員会議で協議決定している。各種検定試験など在学生全員の取得を目標に、また、就職に関しても卒業生全員就職を目標にして運営方針を定めている。	
学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか。	各教職員に伝わっている。	年度初めに学校の重点目標を設定し、それに従い部署毎の重点目標を定め、職員会議で協議し共有している。	
学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか。	整備されている。	就業に関する諸規定をはじめ運営に必要な規定を作成し、全教職員が閲覧できるようにしている。	

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか。	定められている。	各年度初めに年間行事計画書を作成し、職員会議で協議決定している。定期試験や各種検定試験、講習など在学生全員の取得を目標にあげて実行している。	
学校は事業計画に沿って運営されているか。	運営されている。	事業計画に沿って運営を実施することはもちろん、事業が実施されるたび職員会議で内容の再検討をするなどし、よりよい事業運営ができるよう図っている。	

2-6 運営組織や意思決定機関は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
運営組織図はあるか。	ある。	組織図により、各担当部署の業務が円滑に行われている。	
運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか。	なっている。	不具合があった場合、または現状のままでは不具合が生じると予測される場合、事態に応じて組織の見直しを図っている。また、学生に関することで教職員全体での決定が必要な場合は、臨時職員会議などを開き協議・決定している。	
組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか。	明確になっている。	校務分掌、組織図を作成し、職員会議で協議・決定している。	
運営組織や意思決定機能は、規程等において有効に機能しているか。	機能している。	運営組織図があり、組織図に基づく校務分掌がある。伺書兼稟議書には決定区分が示されている。	

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	資格や経験など学校運営の条件に合う人材を確保できている。教職員は、自らの資質を向上させるため上級資格取得に向け、また、担当教科のさらなる知識の習得へ向けて研鑽中である。また、能力及び教授技術向上のための教員研修も年間スケジュールをたてて実施している。	学校運営に必要なと思われる人材育成は重要であり、横並びや年功序列を排除し、適材適所の人材配置を行っている。
人事考課制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し人事考課を行っている。	
昇進・昇格制度は整備されているか。	整備されている。	毎年、4月、10月、年度末に全教職員の面談を実施し該当者は昇進・昇格としている。	
賃金制度は整備されているか。	整備されている。	勤務規程や給与規程など全教職員に学園の規程を誰でも閲覧できるように管理し、その規程に沿って実施している。規定は随時見直しを行っている。	2023.4に一律1,000円アップを予定。さらに2024年度に向けて各職群の最低ランクの引き上げを行い平均5%の改善を計画中。
採用制度は整備されているか。	整備されている。	採用・不採用の基準は、求人票に沿って実施。雇用時の学校への提出書類や解雇についての定めも規則規程で明記されている。	
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	県・国に提出する学校基本調査の書類内にも教職員情報明記の文書があり、明確に把握している。	

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教務・財務等の意思決定システムは確立されているか。	確立されている。	意思決定が必要な際には、稟議書、報告書などを利用するなどしている。	
意思決定プロセスのポイントとなる仕組み（会議など）が制度化されているか。	制度化されている。	毎月、リーダー会議、職員会議を実施。議題ごとに参加者全員が意見を述べられるよう司会者（教職員が持ち回りで担当）が運営している。	
意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか。	行われている。	組織体制を明確にして人材を配している。	

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
業務効率化を図る情報システム化がなされているか。	情報システム構築がなされている。	教職員が共通使用できる専用サーバの開設により、より速く情報を共有でき効率的である。	学校以外の場所からでもサーバにアクセスできるように変更を予定している。
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	なされている。	学校関係者評価委員による学校評価、3つのポリシー、シラバス、自己評価等をホームページに公開している。学校や学科に関するニュースを高校等に隔月で配布している。	

基準 3 教育活動

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	実務に即した技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行う必要があるため、今後も行政、企業との強化し、改善を図っていく。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	社会人になるために必要な知識、技術を習得するための時間数が確保されている。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	医療事務員及び医師事務作業補助者としての知識だけでなく社会人として必要なマナースキル、PCスキル等を学び、資格取得できる時間の確保ができています。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	試験対策に加え、業界のニーズを踏まえ、公務員として活躍できる人材育成も行っている。また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	学生の状況に即した受験指導、授業の指導力の向上に努める。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。2年間の就業年限でトリマー検定、動物健康衛生管理検定、愛玩動物飼養管理士検定などの分野で活用できる検定を取得できる。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	学校関係者評価委員や教育課程編成委員等を通じて関連業界のニーズを適確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業等との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、現場のニーズに応えられるよう人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界のニーズを踏まえ、資格取得に向けた科目を設定しており、2年間で段階的に高度資格取得に向けた学習を行い、現場の即戦力となれる学生の育成を行っている。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。保育園、施設への実習、研修により、知識、技能等、現場からの意見をカリキュラムに反映し、人材育成、指導を行っている。	認定こども園が主流となってくるため、保育士免許だけではなく幼稚園教諭免許も取得し保育教諭となるよう全員短期大学を併修とする。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界のニーズを踏まえた独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。実践力のある保育士を養成するためのカリキュラムとして本校併設の認定こども園において実習的な授業を組み込んでいる。	2024年度より幼稚園教諭免許取得については全員取得とする。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。企業との連携により、業界からの意見をカリキュラムに反映し、最新の技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を実施している。修業年限2年間で2級自動車整備士を取得できる。	留学生含め、ガソリン・ジーゼル2級自動車整備士国家試験の全員合格を目指す。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界のニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。福祉施設との連携により、現場からの意見をカリキュラムに反映し、技術、知識を兼ね備えた人材育成、指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	業界ニーズを踏まえた、独自科目を設置している。また、年2期制で各々定期試験を行っている	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けされているか。	正しく方向付けられている。	業界の時代ニーズを的確に把握しながら、職員会議で協議・決定している。決定し次第、その目標や人材像育成に向けて授業・生活指導を行っている。	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	確保されている。	出入国在留管理庁では、年間760単位時間以上の日本語授業が義務付けられているが、本校では800単位時間以上を確保している。	

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	策定されている。	建学の精神、学科ごとの教育目標、その他目標を立て、年間時間割に合わせ、コマシラバス、教案がある。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	定められている。	ビジネス分野で働くための資格を数多く取得でき、また人間力や一般常識力を実践の中から養うことを目的として取り組んでいる。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	定められている。	社会人として求められる人間力や医療事務員としての基本的な知識、実践力の育成を教育目標として取り組んでいる。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	全学生が受験する9月に向けて、計画を立てた授業運営を行っている。	学生個々の学習能力等を勘案した、放課後の指導や毎日課題を与えて取り組ませるなど1人ひとりレベルの向上に取り組んでいる。	理解度の低い学生に対しては、個々の理解度に即した個別指導を実施している。また、毎週実施される模擬試験の点数を管理、確認しながら指導をしている。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。島根県獣医師会等、業界との連携により、カリキュラム内容も見直されている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	資格取得はもちろんのこと、業界の人材ニーズレベルに照らし合わせて内容設定をしている。県外からの進出企業も増えているため、毎年新たな進出企業と情報交換を行っている。また、教育課程編成委員会での意見も活用しカリキュラム内容の見直しを行っている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。坪内学園附属認定こども園、育英北幼稚園、育英保育園、松江子育て部等の意見を取り入れ、専門的な実践力、応用力を身につけるためにカリキュラムが組まれている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせ内容設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。島根県自動車整備振興会、島根日産自動車株式会社、島根中央ホンダ販売株式会社、業界との連携により、カリキュラム内容も見直されている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	教育目標のひとつである資格取得など、業界の人材ニーズレベルに照らしあわせた内容を設定している。また、期間内に目標に達するよう、教育時間が適切であるかどうかを毎年見直し、職員会議で協議決定している。教育課程編成委員会での意見や介護施設等の意見を取り入れ、学生、保護者にもカリキュラム時間を記した書類を配付している。専門的な実践力、応用力を身につけるためにカリキュラムが組まれている。	

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか（日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。	明確に定められている。	入学時のレベルごとに、進級・卒業基準を設けている。レベル別の進捗を勘案し、課題を与えて取り組ませる等学習の向上に取り組んでいる。そのほか、専門課程進学後の学習を見据え、コミュニケーション力や日本事情についても学べるカリキュラムとなっている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか。	目標達成に向け充分協議された内容であり、体系的に編成されている。	目標達成レベルに対して教育時間および学習指導内容が適切であるかどうかは常に教務で話し合われている。また、これらについては毎年見直し、職員会議で協議決定している。 企業、団体から組織された教育課程編成委員会の意見を取り入れ、カリキュラムの作成、改善をしている。	
カリキュラムを編成する体制は明確になっているか。	明確になっている。	教務部において協議し、作成したものを校長が承認している。	
カリキュラムを定期的に見直しているか。	定期的に見直している。	時代ニーズ、学校の目標などに合っているかどうかなど毎年検討している。見直しがある場合は、職員会議で協議決定し、より効果的なカリキュラム編成となるようにしている。 年に2回の教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムの見直しを行っている。	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	実施している。	各業界で実務経験のある教員が充実しており、実践的な職業教育ができています。 カリキュラムの中にキャリア教育に関する科目が設けられている。就職支援の指導に加え、望ましい職業感の育成を行っている。	キャリア教育の授業を体系化し早期離職防止対策の教育も行っていく予定である。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次にインターンシップを実施している。 授業の中で企業の経営者等による講話を実施している。	企業の経営者等による講話の機会を拡充していく。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次にインターンシップを実施している。特に2年次は内定先でのインターンシップを実施し、職場環境や仕事内容を把握できるようにしている。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	行政機関等よりオンラインも含め、講師を招き公務員としての心構えなどを学ぶ授業を実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次にインターンシップを実施している。 看護専攻の2年生は動物病院での実習を実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（IT学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次と2年次にインターンシップを実施している。 地元IT企業と連携し、現場のエンジニアによる特別授業を実施している。	

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	1年次及び2年次に、提携している保育園、認定こども園、施設等での保育実習を体系的に位置づけ、実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。 事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	企業と提携し、1年次、2年次共に実務実習をとり入れ、業界の最新の技術、知識等を学んでいる。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。 事前・事後指導、テーマをまとめ発表する等行っている。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
関連分野における実践的な職業訓練(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか。	位置づけている。	1年次・2年次に、提携している介護施設等での介護実習を体系的に位置づけ、実施している。	学生に参加目的を明確にして学ばせる。事前・事後指導、実習の振り返りと今後に向けた発表等を行っている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（地域経済学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	適正である。	目標とする検定合格に向け、講義及び演習のバランスを配慮した科目設定と時間数を設定している。教育課程編成委員会等において、外部の方からのアドバイスを頂きカリキュラム編成に生かしている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（医療事務学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	目標とする検定合格に向け、集中的に学習できるよう時間割を設定している。医療事務員としての知識の習得、実践での対応といった内容やビジネスマナー、PCスキルなど医療現場で求められる項目で設定されている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（公務員学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	公務員試験における出題割合・重要性を考慮した科目と時間数を設定している。また、ビジネスマナー、PCスキルなど行政事務等で求められるスキルが習得できる授業も設定されている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（動物学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに、本校独自科目を置いている。また、時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した一般教養も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（IT 学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	IT 業界で必要とされる「国家試験」、プログラミング技術を証明する「実技系の資格試験」とどちらも取得を目指すよう科目を設定している。さらに、企業で必要とされる IT 以外の一般教養についても設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（こども総合学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに厚生労働省の規定により設定している。時間数においては、適切に設定している。また、業界ニーズに即した本校独自科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（国際自動車整備士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに国土交通省による指定科目、本校独自科目を置いている。また、時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した一般教養も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（国際介護福祉士学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	学科、学年別の科目内容は専門学科、専門実習ともに厚生労働省の規定により設定している。時間数においては、より多く設定している。また、業界ニーズに即した本校独自科目も設定している。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか（日本語学科）

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。	適正である。	レベル毎に、読解、聴解、口頭表現など技能別に科目を設けている。また、「総合日本語」では、文化学習も含めた実践的な授業を行っている。	

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか。	作成されている。	各学科で科目毎にシラバスを作成している。	
各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。	作成されている。	各学科で科目毎にコマシラバスを作成している。	

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生による授業評価を実施しているか。	年に2回、学生による授業点検アンケートを実施している。	授業点検アンケートを実施している。結果は職員会議で報告・検討している。学校関係者評価委員会でも、結果について意見をいただき改善に努めている。	
授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか。	体制がある。	教員研修のなかに、模擬授業の実施、実際の授業の参観関連業界の方への公開授業があり、そこで授業方法についての評価を行っている。	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	取り入れている。	教育課程編成委員会があり、年2回実施。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
教員の専門性レベルは、業界レベルに十分に対応しているか。	業界レベルに十分対応している。	専門分野の教員は全員、本校の学科内容に該当する業界の専門分野で必要とされる資格などを有している。	
教員の専門性を向上させる研修を行っているか。	研修を行っている。	専門分野や関連業界に関する内容について研究を行い、専門性の向上を図っている。専門性を向上させるための外部研修会などに積極的に参加。都度、伝達研修も実施している。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格など）を備えた教員を確保しているか。	教員確保をしている。	関連業界での実務経験、関連資格を持つ教員を確保している。専門分野のスキルアップ及び教授力の向上を図るために研修・研究を行っている。また、分野外の資格取得に向けても取り組んでいる。	未取得資格の取得に向けた自己研鑽を行い、さらに知識を深め指導の質のさらなる向上を目指す必要がある。
教員の専門性を適宜把握し、評価しているか。	把握・評価している。	学生が実施する授業点検アンケートにおいて授業評価をしている。専門性についても把握しているが、これにとどまらず専門性を広げるための自己研鑽も奨励している。	
教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか。	把握、評価している。	学生が実施する授業点検アンケートを参考にしながら適性を評価するとともに、授業参観などにより教授力の把握と評価を実施。必要があれば、職員会議で指導方法など協議検討している。	
教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか。	研修内容を年間で決定し、実行している。	職員研修によって、授業内容や、教員として必要な資質を高めるよう努めている。教授力に関しての外部研修会などにも参加。都度、伝達研修も実施している。	
教員間で協業しているか。	協業している。	各科目はシラバスに沿って授業を実施。そのため、改善点などが発生した場合は、該当全教員で検討、改訂し実施している。また、全教職員が協業に努めている。	
関連分野における業界などとの連携において優れた教員（本務・兼務・勤務）を確保するマネジメントが行われているか。	行われている。	関連団体に加盟し情報収集し、優れた教員の確保に努めている。	

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
非常勤講師の採用基準は明確か。	明確である。	実務経験や現場に即した知識・技能などを十分に備えた人材を採用している。	

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	明確になっている。	成績評価・単位認定の基準を規則で定め、それらに準じて実施している。「キャンパスガイドブック」に明記し、学生・保護者にも入学時に伝えている。	「キャンパスガイドブック」をホームページでも閲覧できるようにする。

3-17 資格取得の指導体制があるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか。	明確に定められている。	目標とする取得資格に関しては、全て授業カリキュラムに取り入れている。このカリキュラムに関しては、学生・保護者にも入学時に伝えている。	
目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか。	資格取得のための教育内容になっている。	資格取得のための履修時間数を示す授業時間数表やシラバスに沿って、テキストなどを使い授業を進めている。授業内小テストで不合格の場合など補習を実施。また、受験会場について、本校で可能な資格も多く受験環境にも配慮している。	学生の学力向上に向け、授業の指導内容と補習の見直しと改善が常に必要である。
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	ある。	資格試験日に合わせカリキュラムを構成し、授業計画を立てている。加えて、試験対策等の補習を実施している。	

基準 4 教育成果

4-18 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。	図られている。	求人数などに関するデータを随時把握し、進路会議・センター会議及び職員会議で就職活動に関して常に協議検討し、教員と就職担当者が共に求人獲得のため動き、就職活動に関する授業、履歴書指導、面接練習なども実施している。就職ガイダンスを毎年、1年次の夏休み前に開催しスムーズな就職活動へつなげている。ボランティア活動、企業・法人訪問など、早期から積極的な就職活動を行っている。	
就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	年度ごとに就職先のデータを作成している。また、就職活動に関する受験先などのデータも作成し学校全体で共有把握している。	新規開拓も含め、求人獲得のための企業訪問活動のより一層の充実を図る。

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
資格取得率の向上が図られているか。	図られている。	適切な授業時間数を確保し、理解度を高める授業内容・方法の工夫を常に行っている。検定未取得者には補習などを行い、資格が取得できるまで挑戦させている。取得率の低い科目については、授業内容の見直しも随時行うようにしている。	全員合格とならなかったものについては、全員が資格取得できるよう授業内容・方法を常に検討する必要がある。
資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	明確に把握している。	取得に関するデータは常に職員会議で報告され、協議・検討している。	

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
退学率の低減が図られているか。	図られている。	進路会議、センター会議及び職員会議において学生状況を小まめに共有することにより、退学者防止に努めている。学納金支払いが原因で退学者が出ないよう対策をとっている。本校独自の分納制度、奨学金制度もある。また、担任との面談を年に複数回実施し、学生支援センターで学校生活の相談を随時できるなど退学防止の体制がある。	課題は特に無いが、現状維持も含め、退学者がゼロに近くなるよう学生から早期に相談を受け付けるなど今後も努力を続けていく。
入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか。	把握している。	入学願書、退学届の保管・管理。	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	行われている。	本校職員が高校へ出向し、進路講話（進学または就職）、職業別講話等を行っている。	事前調整を行うことにより、入試センターの職員ではなく、の教員が対応できるように行っていく。

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか。	把握している。	就職担当教員が各企業訪問を実施し、卒業生の勤務状況などを把握している。	社会的活躍については、今後引き続き活躍状況の把握に努める。
卒業生の例として特筆すべきものがあるか。	評価されているものがある。	企業ガイドブック等で仕事の様子が発信されている。	課題は特に無いが、今後、より多くの卒業生の技術が評価されるよう学校として力を注いでいく。
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校教育活動の改善に活用されているか。	活用されている。	教育課程編成委員には、卒業生の就職先企業の方がいるため、状況を把握できる。就職担当者の企業訪問を通じて卒業生の状況を把握している。また、学生のインターンシップ、実習での教員巡回の際などにも卒業後の様子について情報収集できる。必要であれば、教育活動の見直しなどを図るようにしている。	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	整備されている。	一般入試制度において社会人の受け入れを行っている。教育訓練給付制度を取り入れている。離職者等再就職訓練事業の長期高度人材育成コースの訓練を受託している。	

基準 5 学生支援

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	各学科、担任制をとっており、学生は担任へ相談することができる。また、就職等の相談の部署として学生支援センターを備えており、学生は常時利用可能。さらに2週間に一度進路会議を開き学校全体で学生の進路について情報共有している。	
就職に関する説明会を実施しているか。	実施している。	企業・法人ガイダンスを実施し、各企業等の人事担当者などにより直接説明を受けている。	
就職に関する学生個別相談を実施しているか。	実施している。	1年時に、学生全員を対象とした各担任との面談を実施している。また、5月、11月には保護者面談も実施。その後は、必要に応じて担任及び学生支援センター教員が個別相談を実施している。	大半の学生が自主的に就職活動を行っているが、就職活動に消極的な学生に対しては声がけを行い、詳細に支援していく。
就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか。	実施している。	授業カリキュラムで就職活動に関する時間を設け、履歴書作成などを行っている。必要に応じて放課後などに学生支援センター教員が個別に指導している。	

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	特に学生相談という枠を設けず、いつでも担任に相談できる体制をとっている。学生支援センター職員も常時相談に応じる体制である。	
学生相談室を開設しているか。	特にしていない。	特に学生相談という枠を設けず、いつでも担任に相談できる体制をとっている。学生支援センター職員も常時相談に応じる体制である。	
学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか。	いない。	就職に関しては、ジョブ・カード作成アドバイザーを配置している。	
留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	有効に機能している。	学生の相談内容に合わせ、担任または学生支援センターの教員が対応している。	

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか。	整備、機能している。	成績優秀者奨学金付与制度や学業支援授業料減免制度（学費一部免除制度）、学納金分納制度などがある。学生へは入学時や入学後に関連資料を配付。説明会を実施している。また、入学時のみならず進級時にも利用できる成績優秀者奨学金付与制度を導入している。	
奨学金制度が整備され、有効に機能しているか。	有効に機能している。	時期に応じて奨学金制度の告知、説明会を実施している。利用者あり。	
学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか。	整備され、有効に機能している。	授業料減免制度は授業料金（一部）免除。日本学生支援機構奨学生制度の利用者に対しての分納制度を導入。本校独自の奨学金制度あり。	

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか。	支援体制がある。	定期健康診断の実施。保健室の設置。 AED 設置。玄関及び各教室に消毒液常備。 毎日検温を実施し学校に報告。	
学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか。	特に設けていないが、学生の体調不良時には相談窓口があり、授業担当者や担任と連携して対応している。	学校事務局において学生健康診断の管理を行っている。学生支援センターを窓口にし、学生の健康上必要であれば保護者に連絡するなどしている。看護師としての実務経験を持つ教員がいる。	
学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか。	専門医はいないが、車で数分のところに総合病院があるため、必要であれば直ちに搬送するよう体制をつくっている。	学生支援センターを窓口にし、対応している。	

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
スポーツクラブ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。	コロナが落ち着いたことから、各種活動は順次再開している。	年間スケジュールを組み各学科ごとに取り組んでいる。自由選択科目として「実践ボランティア」という科目を設け、学生の自主的参加を促し、単位認定を行っている。	全学共通のボランティア活動として実施していた献血や学校周辺の清掃活動については、未だ再会できていない。

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	行われている。	学生寮（学生会館）がある。寮での生活方法などについて指導・助言している。	

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
保護者と適切に連携しているか。	連携している。	保護者代表を選出し、学校関係者評価委員を委任している。また、学外での活動への参加に協力をいただいている。毎年5月・1月には保護者面談を実施している。また、就職や学校生活に関してなど、必要に応じて適切に連絡をとりあうようにしている。	

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
同窓会が組織化され、活発な活動をしているか。	活動している。	同窓会組織を設置しており定期的に同窓会を実施している。	定期的に同窓会を開催する。
卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか。	仕事に関する事や資格取得などのフォローアップをしている。	来校する卒業生に対して、教員が時間を設け対応している。	

基準 6 教育環境

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	本校での教育上必要であると思われる施設・設備を整備している。	資格取得など学習に必要な施設・設備を整備している。	
施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか。	整備されている。	専門業者によるメンテナンス、セキュリティ管理を行っている。 施設・設備に破損などがあった場合は、補修もしくは再購入などで対応。また、点検が必要な施設に関しては定期的に点検を行っている。	
施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか。	更新されている。	カリキュラムに沿って必要な設備を購入するなど、計画的に更新している。	

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか。	外部企業と十分な連携をとりながらインターンシップを実施している。 学外実習としては、動物学科にて研修旅行を年に1回実施している。	企業との締結のもと、授業として2年次にインターンシップを実施している。教員が実習先の巡回をして学生の様子を把握している。また、学生が作成する日誌・レポート等を通して実施の成果を確認することができる。	各活動を通して、学習の意欲向上や最新技術の情報収集につながるよう、より充実した内容になるよう今後も協議していく。 特に1年次のインターンシップ先の確保は継続した課題であり、学生支援センターの協力も得て受け入れ先の開拓を行う。
学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか。	実績と教育効果を確認している。	研修後、学生が作成するレポート等を通して十分な効果があることを確認している。	

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
防災に対する体制は整備されているか。	整備されている。	災害時における具体的な行動マニュアルなどを整備している。	
災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか。	伝えられている。	機器の取扱については十分に注意を払うよう指導している。	
実習時等の事故防止の体制は十分か。	十分とっている。	機器の取扱や作業方法など、事故が起こらないよう動物学科では、細心の注意を払っている。	現状維持も含め、今後、事故が起こらないよう努力を続けていく。
防災訓練を実施しているか。	実施できている。	教職員・学生参加で総合（通報・避難・消火）訓練を実施している。	

基準 7 学生の募集と受け入れ

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集活動は、適正に行われているか。	適正に行われているが停滞気味である。	誇大表現は避け、教育内容紹介などに関しては真实性と明瞭性に配慮したものとなっている。 従来型のテレビ、新聞広告などから SNS 中心にした募集活動への転換途中である。	SNS での情報発信から募集へとつなげる流れを構築させる。 学生情報を得るためのガイダンス、学校見学に注力する。
学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか。	志望者・保護者等の立場に立ったものとなっている。	学校側が伝えたい事項、求める側が知りたい事項の伝え方として、掲載内容や表現方法を再考し、わかりやすさを重視した。	引き続き、求める側のニーズに快く情報が届くような学校案内の作成およびホームページ運営に努める。
志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか。	体制がある。	専門部署を設置し、直通のフリーダイヤルやメールアドレスを整備。問合せ・相談には専任職員が対応している。SNS を活用した問い合わせや相談にも対応している。	問い合わせや相談からオープンキャンパスへとつなげる仕掛けづくりが課題である。
募集定員を満たす募集活動となっているか。	十分でない学科もある。	昨年対比でほとんどの学科の出願が減っている。	質の高い教育、カリキュラムの工夫が必要である。ガイダンス、オープンキャンパスも魅力や楽しさを伝える工夫が必要である。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか。	ほぼ伝えられているが、卒業生の活動に関してはもっと伝えていく必要がある。	山陰各地で本校卒業生の活躍、現状を確認することができているのでまだアピールが足りていない。	松江市だけでなく山陰各地で活躍している卒業生にコメントなどもらいパンフレットやチラシなどでアピールしていく。
卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか。	持っていない。	活躍等、教育成果が学生募集に貢献したかどうか認識するための調査等を行っていない。	引き続き、卒業生の今後の活躍状況を伝える機会を作り、入学生への聞き取りも検討が必要である。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。	行われている。	入学選考方法の基準を示し、募集要項に記載している。	
入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	毎年、入試に関するデータを作成し、学生募集の際の資料として使用している。	

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感を考慮し、妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	教育内容や関連経費、保護者・学生の経済的状況などを考慮した妥当なものとしている。	
学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか。	正確に把握している。	学納金に関する情報は、毎年正確に把握・記録している。	

基準 8 財務

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	ほぼ安定しているといえる。	現在の時点では安定しているといえる。ただ、本校に限らず今後の経済状況の変化や少子化による影響も出てくる時期があると思われる。	
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか。	把握している。	財務については監査会、評議員会及び理事会において報告・承認を得ている。	

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか。	妥当なものとなっている。	予算、補正予算をたて、計画に基づいて運営を行っている。	予算は常に見直しを行う必要があり、さらに精度の高いものにするため、当初予算の立て方を根本的な見直しを検討している。
予算は計画に従って妥当に執行されているか。	妥当に執行されている。	監査会、評議員会及び理事会において報告、承認を得ている。	

8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
財務について会計監査が適正におこなわれているか。	適正に行われている。	監査会の実施を行っている。	
会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか。	妥当である。	年間スケジュールを立てて実行している。	

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか。	できている。	ホームページに公開している。	
私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか。			

基準 9 法令等の遵守

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか。	適正な運営がなされている。	県・国に関係書類を提出し運営許可を得ている。また、法令や設置基準に対しては、改正が行われるたびに県、国に確認をとるなどし、把握と遵守を行っている。	
法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	実施している。	法令遵守については、学生は授業内で学習。教職員に対しては法令や基準の変更などが発生する都度、伝達し実施している。	

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	対策がとられている。	個人情報の記載されたファイルなどは、指定された人および場所で管理している。	
個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか。	行っているが継続して行っていく必要がある。	教職員の個人情報に関する研修会への参加に加え、教職員は個人情報保護についての意識をもち業務にあたっている。学生に対してはビジネス教育の授業で実施している。	1度だけでなく定期的に行うこと。また、個人情報流出の実例をだしながら研修を行うと効果的である。また、コンプライアンスについても啓発を行うとより効果的である。

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
自己点検・自己評価を定期的の実施し、問題点の改善に努めているか。	定期的の実施。改善に努めている。	職員会議にはかり、全教職員が自己点検・自己評価に参加。問題点の改善に努めている。学校関係者評価委員による評価も活用している。	
自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか。	確立している。	自己点検・自己評価は、学校運営状況および学校運営向上のための取り組みなどを、より多くの人に理解してもらうことを目的としている。	
自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか。	伝わっている。	HPで公開することにより、その意図は学内外問わず多くの関係者に伝わっていると推測される。	
自己点検・自己評価結果は公開しているか。	している。	HPにて公開。	

基準 10 社会貢献

10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか。	取り組んでいる。	社会問題について、各担任がホームルームや授業内で取り上げるなどしている。	特に地域経済学科の授業の中で地域の魅力や課題を知り、何ができるのか考え、主体的に解決に向けた企画提案を行う。
広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか。	図っている。	教育機関や企業・団体等と連携をとりながら学生の資格取得や技術習得の機会を設けている。	
学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか。	連携している	毎年 10 月に学園祭を実施しており、外部の方が学校施設、設備に触れる機会を作っている。	
重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓発活動を行っているか。	行っている。	重要な社会問題について、各担任がホームルームや授業内で取り上げるなどしている。	

10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	奨励、支援、把握している。	自由選択科目として「実践ボランティア」という科目を設け、学生の自主的参加を促している。 企業・施設等からのボランティア募集依頼があった場合は、都度、学生に紹介している。 学校単位で施設等への清掃活動や行事参加などを推進している。いずれも年間スケジュールを立て、全学生が参加している。	献血運動（松江ライオンズクラブと連携）と学校周辺の清掃活動については、コロナが落ち着いてきたことから再開を検討していく。
学生のボランティア活動の状況を把握しているか。	把握している。	自由選択科目「実践ボランティア」では、実施の報告書の提出により活動状況を把握している。 学校への企業・施設等からのボランティア募集は、学校が参加者のとりまとめをし、実施先との連携をとっている。 学校指定のボランティア活動は授業カリキュラム内にも設定。教員も付き添っている。	